

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
北海道医薬専門学校	平成7年12月5日	金田英司	〒001-0024 札幌市北区北24条西6丁目2番10号 (電話) 011-716-1950																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人美専学園	昭和62年12月4日	増田 涼平	〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目1番12号 (電話) 011-756-0777																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	保育学科	平成30年文部科学省 告示号外第41号	—																							
学科の目的	情操豊かな、自律性・協調性に富む人格形成を目指すとともに、深い理論と高度な技術・技能を教授し、実践的・専門的な能力を有する保育士として社会に貢献できる人材を育成する。																										
認定年月日	平成30年2月28日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	年間	2,130時間	480時間	1,380時間	240時間	0時間	30時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
80人	5人	0人	6人	10人	16人																						
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験・レポートその他の方法並びに提出物等をすべて勘案する																							
長期休み	■学年始: 4月1日～4月5日 ■夏季: 4週間(7月下旬～8月下旬) ■冬季: 3週間(12月中旬～1月初旬) ■学年末: 3週間(3月中旬から4月上旬)		卒業・進級 条件	各学年での全科目を履修し、所定の単位を修得した者を認定会議の議を経て進級・卒業を認める																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的な個人面談指導の実施 連絡・相談		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア・学科交流会等の実行委員会 体育的行事・儀式的行事・旅行的行事 ■サークル活動: 有																							
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和1年度卒業生) 認定保育園 インターナショナルスクール ■就職指導内容 就職ガイダンス、履歴書作成、面接練習等 ■卒業者数 : 3 人 ■就職者数 : 3 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																							
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>幼保英語検定4級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>全国手話検定5級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>硬筆書写技能検定3級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	保育士	①	3人	3人	幼保英語検定4級	③	3人	3人	全国手話検定5級	③	3人	3人	硬筆書写技能検定3級	③	3人	3人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
保育士	①	3人	3人																								
幼保英語検定4級	③	3人	3人																								
全国手話検定5級	③	3人	3人																								
硬筆書写技能検定3級	③	3人	3人																								
中途退学 の現状	■中途退学者 0名 令和3年4月1日時点において、在学者8名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者8名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由		■中退率 0%	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
	■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング等の日常のサポート			■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 学校推薦特待、AO特待、適正特待証明、ファミリー特待、パブリック奨学、スカラシップ奨学、保育士養成支援奨学 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	URL: http://www.iyaku.ac.jp																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
本校の各学科の分野におけるプロ養成に必要な基礎から実践まで一貫した教育を施すため、地域企業や外部人材を活用し、より実践的な教育課程を編成するため積極的に企業等と連携する

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業からの推薦による。校内においては、学校運営の長である校長が主宰として委員会を開催する位置づけとする。委員会には学科長または教育編成の係が出席し、学科の教育課程編成の際の科目設定・単位数等に反映させている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
西尾 正道	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター 名誉院長	平成27年4月1日～令和5年3月31日(8年)	①
佐藤 真一	見聞録 代表	平成27年4月1日～令和5年3月31日(8年)	③
新谷 文隆	日本未病システム学会 評議員 有限会社 キューズ・エー	平成27年4月1日～令和5年3月31日(8年)	②
品川 祐基典	医療法人社団水色の木もれ陽 肝臓クリニック札幌 事務長	平成28年4月1日～令和5年3月31日(7年)	③
本間 仁	社会医療法人孝仁会 北海道大野記念病院 画像診断部 技師長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
春口 優紀	独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター 教育主事	平成31年4月1日～令和5年3月31日(4年)	③
真鍋 尚美	社会福祉法人日本保育協会 北海道支部 副支部長	平成30年4月1日～令和5年3月31日(5年)	①
木村 貴裕	社会福祉法人幸友福祉会 白楊みどり保育園 園長	平成30年4月1日～令和5年3月31日(5年)	③
金田 英司	北海道医薬専門学校 校長		
太田 雅子	北海道医薬専門学校 副校長、教務部長、医療事務学科長		
実原 美和	北海道医薬専門学校 副校長、看護学科長		
裕田 雅世	北海道医薬専門学校 薬業学科長		
小林 憲雄	北海道医薬専門学校 保育学科長		
武田 祐司	北海道医薬専門学校 診療放射線学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 前期と後期に実施(毎年7月、2月)

(開催日時)

第1回 令和4年7月6日(水) 16:00～17:00(予定)

第2回 令和5年2月22日(水) 16:00～17:00(予定)

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 地域に密着した保育、支援を行っている保育所、福祉施設であって、学生実習の受け入れ実績があり、専任の指導体制をとることが可能な保育所、施設を選定する。実習に当たっては、保育所及び福祉施設等の要請を十分に生かしつつ、当該保育所等との十分な連携の下、保育士として必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 保育所、福祉施設との事前打ち合わせ、実習中の巡回指導等を通じて、実習が円滑に行われ充実した内容となるよう十分配慮する。実践的かつ専門的な知識・技能等を備えた実習指導者の下、学生が実習を通してより実践的・専門的な知識・技能等を修得するとともに、より高次の目標設定等に取り組む姿勢を身につけ、連携関係が学生の保育者としての資質・能力の獲得、拡充を推進する機会となることを目標とする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習Ⅰ	保育所や児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。	手稲曙保育園ほか
保育実習Ⅱ	保育所や児童福祉施設等での実習。役割や機能としての具体的な取り組みを理解するとともに、保育士の業務と職業倫理を学ぶ。	手稲曙保育園ほか
保育実習Ⅲ	児童福祉施設、社会福祉施設の中で何らかの問題や課題を抱える家庭や個人にたいして自立に向けた支援のあり方や支援計画のあり方、他職種との連携について体験的に学ぶ。	社会福祉法人 侑愛会
医薬特別講座	学校独自科目である本科目に於いて、障害の理解を深めるために施設長と施設の利用者様に講演をしていただき理解を深める。	合同会社 チキサニ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 教員は学校法人美専学園就業規則第57条に則り、業務遂行能力や学生指導力の向上、最新の業界情報収集を図るために研修を受講しなければならない。教員の経験年数や担当学科・選考等を考慮し、研修計画を策定し、研修を受ける機会を積極的に設ける。また、必要に応じて学校内・学校外で情報を共有するため、研修報告書の開示や報告会等を実施する。

(2) 研修等の実績
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「これからの保育のあり方」(連携企業等：札幌認定こども園)
 期間：令和3年5月17日(木) 対象：全教員 全学生
 内容：松田由貴子氏から外国の保育園と日本の保育園との違いや認定こども園と保育園の違い、命の大切さ等についてご講演をいただいたき、ご助言を賜った。

② 指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「今、求められている・求めたい間の中でコロナ禍の状況をふまえて」(連携企業等：北海道私立専修学校各種学校連合会)
 期間：令和3年8月3日(火) 対象：連合会全会員
 内容：札幌教育大学 前田賢次氏 から新型コロナ禍における様々な教育のあり方を事例を通して講話をいただいた。

(3) 研修等の計画
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「未定」(連携企業等：保育士養成協議会)
 期間：令和4年7月2日(土) 対象：協議会全会員
 内容：未定のため不詳

② 指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「子育てに役立つピア・サポート」(連携企業等：校内研修会)
 期間：令和4年10月5日(水) 対象：全教員
 内容：生涯学習インストラクターの会 田中 博氏からピア・サポートについて演習を交えて学ぶ予定。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確に具体的に把握して学校運営の改善・強化を目指すものである。また、同時に関係する業界、企業等との信頼関係を深めることを基本の方針としている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の教育理念・目的・人材育成は明確になっているか
(2) 学校運営	教育活動に関する情報公開がなされているか
(3) 教育活動	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか
(5) 学生支援	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
(6) 教育環境	防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集は適正に行われているか
(8) 財務	財務について会計監査が適正に行われているか
(9) 法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で頂いたご意見を基に、特に評価の低い項目については、各学科と分掌で確認し課題解決に取り組んでいる。また、教育内容の見直しや臨地実習・就職先の新規開拓、施設・設備の充実、健康安全への配慮、職員の資質向上等を図ることで、時代のニーズに応える教育を常に提供できる学校運営の改善に努めている。今後も地域、業界団体等のご意見を拝聴し、学校運営に反映していきたいと考える。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
河村和義	(株)アトリエK 会長	平成25年11月1日～令和5年3月31日(9年)	企業関係者
櫻井俊二	(有)I.B.DESIN	平成25年11月1日～令和5年3月31日(9年)	企業関係者
山森鉄夫	山森鉄夫司法書士事務所	平成25年11月1日～令和5年3月31日(9年)	企業有識者
細木実	(株)asclair メディカルフィット整骨院	平成30年11月1日～令和5年3月31日(5年)	企業関係者
根上和也	学校法人美専学園 北海道芸術デザイン専門学校		校長
金田英司	学校法人美専学園 北海道医薬専門学校		校長
太田雅子	学校法人美専学園 北海道医薬専門学校		副校長 教務部長
稲葉未紗	学校法人美専学園 北海道芸術デザイン専門学校		就職課主任
前田淳子	学校法人美専学園		経理課主任

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育内容等を就職先企業や関連企業・団体、保護者、地域社会等の関係者に積極的に理解を求め、ともに情報を共有し、指導・助言をいただく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色、人材育成の特色
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、収容人員、学修成果
(3) 教職員	各教員の担当科目、教員の専門科目に関する情報
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援への取り組み状況、実習等の取り組み情報
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況
(6) 学生の生活支援	学生支援への取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い
(8) 学校の財務	収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ・派遣状況
(11) その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.iyaku.ac.jp>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科) 令和 4 年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育原理	保育の意義や目的、歴史的変遷などについて学び、併せて保育の現状と課題を明らかにし、保育に求められる社会的役割や責任について考える。	1後	30	2	○			○		○		
○			子ども家庭福祉	現代社会における、子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。子どもの人権擁護や家庭福祉の制度、現状と課題、今後の動向や展望を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			社会福祉	社会福祉とは、全ての人の生活や人生に関わる活動や法制度である。保育士として必要な社会福祉の知識と考え方を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			社会的養護Ⅰ	社会的養護の意義と歴史的変遷について理解を深め、制度、施策、方法（実践）など基本的な知識を備え、子どもや保護者にそれぞれ対応ができることを目指す。	1後	30	2	○			○			○	
○			保育者論	少子高齢社会における保育者の役割と責務、専門的倫理について学び、専門職間や専門機関との連携や協働、さらに専門性の向上の大切さについて考える。	1後	30	2	○			○			○	
○			保育の心理学	人間を理解するため、自分をより知るために、心理学という学問を体系的にわかりやすく講義する。さらに、乳児院の発達を中心に発達理論を概観しながら、この時期の特徴と各領域の発達の様相を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			子どもの理解と援助	子どもの実態に応じた発達・学びの把握と子どもを理解する視点・方法・発達援助の習得を目指す。	1後	30	1	○			○			○	
○			子どもの保健	子どもの発育・発達・健康状態の把握、子どもの疾病の予防及び適切な対応について講義する。	1後	30	2	○			○			○	
○			子どもの食と栄養	保育士は食と栄養についての基礎知識や技術に支えられた応用力を備えることが大切である。調理実習の体験により支援能力を高める。	1通	60	2	○			○			○	
○			保育の計画と評価	計画が保育の中でどのような役割を果たすかを理解し、意義や重要性に気づく。また、計画を実践するうえでの評価について学び、計画、実践、評価、改善のサイクルを理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			保育内容（健康）	子どもの心と体の健康はどのように育まれているのか、その重要性を知り、実際に保育内容の組み立てや支援など、子どもの成長や発達にふさわしい実践のあり方を学ぶ。	1前	30	1	○			○		○		

○		保育内容（言葉）	言葉の発達の道筋をしっかりと理解したうえで、子どもの言葉の発達について、保育者の関わり・役割、児童文化財から学んでいく。	1後	30	1		○	○	○								
○		保育内容（表現）	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする力の基盤を培うことを理解する。	1後	30	1		○	○	○								
○		身体表現	リトミックについて実際に経験しながら理解するとともに、幼児の年齢や発達に応じた狙いや活動を学ぶ。伴奏法の基礎的な知識や能力を身につけ、言葉がけしながら伴奏する経験をする。	1前	30	1		○	○									○
○		音楽表現	器楽演奏、音楽表現を実際に体験し、こどもの発達段階とそれに即した音楽表現の実践方法、活用方法を学ぶ。	1後	30	1		○	○									○
○		図画工作	幼児が持つ表現したいという自由な欲求が満たされる実践的な造形表現に必要な多様な技法を学ぶ。	1後	30	1		○	○									○
○		児童文化	児童文化が子どもの育ちを支えるものであることを理解し、絵本、紙芝居、ペープサート等を通して、保育教材の扱い方や遊びの技術を学ぶ。	1後	30	1		○	○									○
○		乳児保育Ⅰ	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解するとともに、乳児保育の現状と課題、3歳児未満の発育・発達を踏まえた保育等について学ぶ。	1前	30	2	○		○	○								
○		保育実習Ⅰ	保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。	1後	##	2			○	○	○							○
○		保育実習指導Ⅰ	保育実習の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解するとともに、保育実習の現状と課題、3歳児未満の発育・発達を踏まえた保育等について学ぶ。	1通	60	2		○	○	○								○
○		保育指導法	保育実習の意義・目的を理解する。また、実習の内容と課題を明確にして、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について理解する。	1前	30	2	○		○	○								
○		ピアノⅠ	子どもの歌の演奏と伴奏付けを習得する。音符の読み方、運指、基礎的な楽語、幼児教育者として必要な演奏技術を習得する。	1前	60	2		○	○									○
○		ピアノⅡ	子どもの歌の演奏と伴奏付けを習得する。音符の読み方、運指、基礎的な楽語、幼児教育者として必要な演奏技術を習得する。	1後	60	2		○	○									○
○		子どもの遊び	遊びの理論、意義、援助法、指導計画などの実践的な知識や技術を身につけ、子どもの遊びから何が見えるか、読み取るかを学ぶ。	1前	30	1		○	○									○
○		保育内容演習	「養護」と「教育」の関連性と総合的な展開の際に必要な知識、技術判断の習得を目指す。	1前	30	1		○	○	○								

		○ 国語	保育の現場に立つものとして必要な会話や文章表現の基礎を学び、話す力・書く力を向上させる。	1前	30	2	○			○		○
		○ 憲法	憲法の基本となる知識を実例に即し講義を行う。憲法総論、人権分野、統治分野に関し条文をベースに解説する。	1前	30	2	○			○		○
		○ 保育の英語Ⅰ	幼稚園及び保育園における子どもたちや保護者との英語によるコミュニケーションを習得する。	1前	30	1		○		○		○
		○ 保育の英語Ⅱ	英語のスタンダードな歌を歌い、比較的平易で使用語数の少ない映画を鑑賞することで、英語学習の楽しさや学習への意欲を高める。	1後	30	1		○		○		○
		○ 体育講義	乳幼児期の身体の発達に併せて、系統的に身につく「走」「跳」「投」の基礎的運動機能を生かし、練習によって運動が上手にできるようになる指導方法について学ぶ。	1前	30	1	○			○		○
		○ 体育実技	年齢毎のごっこ遊び、体育の中の運動遊び、加えてルールのある集団遊びやゲーム性の強い球技など具体的な方法と指導法について学ぶ。	1前	30	1			○	○		○
○		教育原理	教育の意義、目的及び児童家庭福祉等との関わりについて理解する。教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎理論や思考形式を身につける。	2前	30	2	○			○		○
○		子ども家庭支援論	保育士による子ども家庭支援の意義や役割を学び、どのようにして子育て家庭に対する支援体制をすべきかを考え、多様な支援の展開と関係機関との連携を行う方法を学ぶ。	2後	30	2	○			○		○
○		子ども家庭支援の心理学	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。	2前	30	2	○			○		○
○		保育内容総論	「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解するとともに、指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。	2前	30	1		○		○		○
○		保育内容（人間関係）	「養護とは」「教育5領域」それぞれを理解し、子どもの理解を深める。保育内容は年齢に合っているか、子どもの興味感心を引くか、その後の展開を望めるか等を検証し学習を深める。	2前	30	1		○		○		○
○		保育内容（環境）	5領域「健康・人間関係・環境・言葉・表現」を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。	2前	30	1		○		○		○
○		乳児保育Ⅱ	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解し、乳児保育の基本、乳児保育における配慮の実際、計画の実際について理解する。	2前	30	1		○		○		○
○		子どもの健康と安全	保育に保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、事故防止、安全対策等について理解する。	2前	30	1		○		○		○

